

令和8年度第2回幸区地域福祉計画推進会議 会議録

会議の概要

開催日時		令和8年8月6日（木）午前9時55分から午前10時55分まで	
開催場所		幸区役所4階 第3会議室	
出席者の氏名	委員 （出席）	関川浩司（幸区医師会） 加藤満治（幸区社会福祉協議会） 軍司武夫（幸区民生委員児童委員協議会） 石井 雅之（幸区民生委員児童委員協議会） 滝澤富士子（幸区町内会連合会）	三浦ひろみ（川崎市育成会手をむすぶ親の会幸支部） 出口光徳（日吉商店街連合会） 松本健一（川崎市幸区身体障害者協会） 大塚謙一郎（幸区地域教育会議） 東樹康雅（まちのおと さいわいソーシャルデザインセンター）
	オブザーバー	小澤竜騎（幸区社会福祉協議会）	
	事務局	小泉（地域みまもり支援センター所長） 村山（地域ケア推進課長） 一之瀬（地域ケア推進課企画調整係主任）	上久保（地域みまもり支援センター副所長） 小田（地域ケア推進課企画調整係長） 高橋（地域ケア推進課企画調整係主任）
	議 事 （公開）	1 議題 （1） 第8期幸区地域福祉計画策定に向けて （2） 第8期幸区地域福祉計画独自広報ツールについて （3） その他	
傍聴人の数		0名	
配付資料		資料1 第8期幸区地域福祉計画策定に向けて 資料2 第8期幸区地域福祉計画レイアウト案 資料3 第8期幸区地域福祉計画独自広報ツールについて 参考資料 第8期幸区地域福祉計画策定に向けた基本的な考え方	

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局	開会 議事録作成のための録音、記録としての写真撮影について了承、資料の確認。 今年度初めての出席者は各自から自己紹介。また、事務局からも挨拶。
議題（１）第８期幸区地域福祉計画策定に向けて	
事務局	【資料１に基づき説明】 第８期幸区地域福祉計画の策定にあたり、高齢化の進展等の考慮すべき統計データ、第７期計画を踏まえた考慮すべき事項、第８期計画策定に向けた基本的な考え方、経過鵜のレイアウト案などを説明。計画策定に向けて意見や質問をいただきたい。
関川委員	第７期では区計画の冊子を作成し、第８期は全区合同の冊子を作成するとのことだが、こうした冊子はどのような人に見てもらうことを対象としているか。
事務局	第７期では「手に取りやすいように」という委員意見を踏まえ、計画冊子の表紙もカラフルにするなどして、地域の皆様に配布した。第８期は市計画と区計画が一体化されるため、これまでと同様に配布することは難しいが、次の議題になっている独自広報ツールを用いて地域福祉計画や地域包括ケアシステムの広報を行っていく予定だ。
大塚委員	第７期では、一人一人の区民がどんな形で守られて、この福祉計画の中で何が行われているかを知っていただくというコンセプトがあったと思います。
事務局	基本的なコンセプトは第８期でも変わらないが、ペーパーレス化を全市として取り組む中で現実的なボリュームにせざるを得ないのを御理解いただきたい。
議題（２）第８期幸区地域福祉計画独自広報ツールについて【資料２】	
事務局	【資料２に基づき説明】 新たに作成する独自広報ツールについては「幸区地域包括ケアシステム推進パンフレット」を発展させた「通常版」のほかに、前回会議での意見を踏まえ外国人・障害者への広報や教育現場での活用を目的に「やさしい日本語版」も併せて作成する方針や、それぞれのページ構成案について説明。皆様の立場からアドバイスや意見をいただきたい。
東樹委員	前回会議で、「やさしい日本語版」の作成を提案したので、配慮いただき感謝する。
事務局	内容についても今後相談しながら作成していく。
出口委員	独自広報ツールはデジタル媒体なのか。
事務局	紙での配布を基本としているが、併せてホームページにもデータを掲載する予定。
東樹委員	第８期計画の資料で「育む」ことが重要なポイントになっているが、今後、地域の中でいろんな活動が育まれるように独自広報ツールも活用して推進していきたい。
事務局	ありがとうございます。
大塚委員	次回の９月予定の会議で、独自広報ツールの具体的な内容が提示されるのか。ある意味、計画よりもツールのほうが重要で、委員の思いも入ったような冊子にしていきたい。
事務局	次回会議は計画本体の内容を詰めていく段階なので、独自広報ツールの内容を詳細に検討するのはもっと後になるが、いつでも意見をいただければありがたい。
議題（３）その他	
事務局	今回の議題内容に関係なくてもよいので、地域の生活課題の解決のために活動していることなどがあればお話しいただきたい。
関川委員	「つながる」というコンセプトの説明があったが、私の所属するクリニックの運営団体

	が南河原公園で納涼祭を毎年やっていて、地域の商店にキッチンカー的な出店をしてもらっている。こういったものを活用することで地域の皆様にも集まってもらえる。クリニックでは地域住民向けの無料コンサートを3か月に1回のペースで実施している。 高齢化で介護される人が増えていて、市のホームページもそうした人向けのレスパイトケアに関する案内が出ているが、クリニックの外来に来た患者の家族に聞いても、そうした案内を知らないことがあり、そのような方に届けられるような具体的な情報を共有する方法があってもよい。 幸区でも路線バスの削減などで通院に苦労している高齢者も増えている。川崎区ではワンコインのデマンドバスが導入されたと聞いたが、幸区では導入予定はないのか。 外国人も統計では増えているとのことだが、当クリニックには日本語が全く分からない外国人が来院することもあり、翻訳ツールを用意しているが費用が生じる。このあたりの補助などの考えはないのか？ 川崎いのちの電話活動についても運営を維持するためのチャリティーが行われるので行政としても協力を願いたい。
事務局	デマンド交通は中原区でも試行実施したが、収支と費用対効果の兼ね合いで、本格実施に至っていないこともあり、他の区でも今後どう拡大していくかはわからない。 川崎いのちの電話活動のチャリティーについては、既に各区役所でチラシ配架を行っている。
東樹委員	チャリティーの広報であれば当センターでもチラシ配架などが可能だ。医療通訳に関して取り組んでいる NPO 法人もあるので、そうした団体と連携することも考えられる。
事務局	情報提供等に感謝申し上げます。 他に意見がなければ、以上で全ての議題が終了とする。 次回は9月を予定している。これをもって、第2回推進会議を終了とする。

以上